



令和4年度 高知若草特別支援学校 学校経営計画

校訓

明るく
賢く
遅しく

学校教育目標

児童生徒一人一人の個性と障害の状態に応じた適切な教育を通して、何事にも主体的に取り組み、他を思いやる心をもって、積極的に社会に参加し、自分らしい豊かな人生を送ろうとする人間を育成する。

- ・生活に役立つ知識・技能の獲得
- ・新しいことに対応できる思考力・判断力・表現力の育成
- ・ひたむきに学びに向かう力の育成

目指す児童生徒像

徳 意欲・協調・協力
知 自ら学ぶ
体 健康・体力

目指す学校像

- 児童生徒が自己実現を達成できる学校
- 保護者が成長と発達を実感できる教育を行う学校
- 地域になくてはならない存在として愛される学校
- 教職員が仕事に誇りをもち、やりがいを感じる学校

【強み】

- ◆小中高一貫教育
- ◆他職種との協働
- ◆本・分3校の連携
- ◆素直・真面目
- ◆地域・関係機関との連携

大切にしたい3つの基本姿勢

やさしく

ていねいに

しっかりと

【教職員がつけたい力】

- ◇専門性
- ◇学部間協働
- ◇学舎連携
- ◇柔軟な創造力
- ◇エビデンスベース

令和4年度に重点とする主な取組

「カリキュラムマネジメントによる学校全体の構造や取組の改善・充実」

－ 学びをつなぐ学校づくり計画(R2～4) －

I 授業改善から教育課程の改善・充実

○主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善と学習評価を教育課程の改善につなげ、一人一人に応じた教育課程を編成します。

- ①単元計画案等を基に実施した授業の学習評価を年間指導計画に活かす。
- ②単元での授業づくりのPDCAを徹底し、主対深の視点での授業改善を進める。
- ③卒業後を見据えたキャリア教育に取り組む。

II 自立活動の指導の充実

○教科学習を後ろ支えする自立活動の指導内容の充実を図ります。

- ①流れ図等の作成や見直しを通して、教科学習を後ろ支えする自立活動の指導の充実を図る。
- ②教科の指導に自立活動の配慮が見える化（単元計画案等）することで、教科との関連を理解する。

III ICT 機器等の活用の推進

○全ての教員が児童生徒の実態に応じたICT機器を利活用できるようになります。

- ①児童生徒の実態に応じたICT機器（Chromebook,iPad,VOCA等）を授業の中で利活用する。
- ②全ての教員がGoogle Works for Educationを校務で利活用できるようになる。

IV 働き方改革

○子どもに向き合う時間、自分自身を高める時間の確保と、一人一人の力が生かせる職場づくりを進めます。

- ①教員一人一人がワークバランスを意識した働き方を実践するとともに、効果的、効率的で計画的な業務により教材時間等の確保を行い、業務の平準化を進める。
- ②本校・分校が協働し、各校の教育活動の交流による質の向上を図るとともに、業務の効率化を図る。